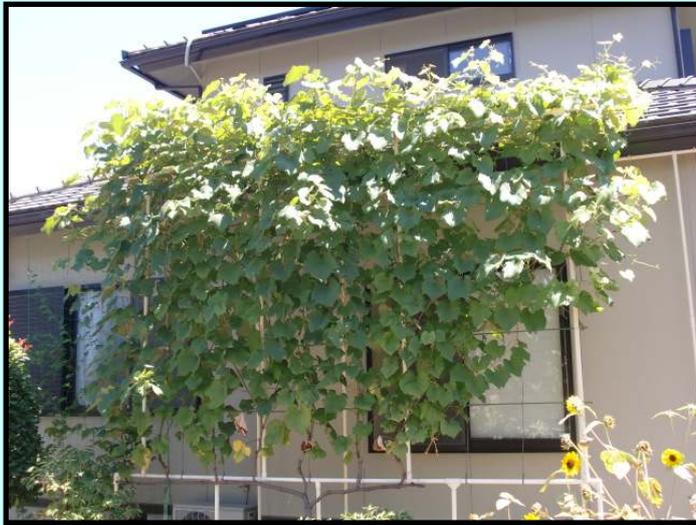


緑のカーテン取り組み情報



お名前(ニックネーム)	清水 喜美男さん (甲斐市)		
育てた植物の種類	ぶどう(スチューベン)		
設置場所	住宅西側の窓辺		
カーテンの大きさ	高さ: 約 3.5 m, 幅: 約 3.5 m	取り組み年数	7年目

緑のカーテンの効果

内面的な効果として、①涼しさと省エネ:室温の測定はしていませんが、今夏も冷房なしで過ごせました。②食べる楽しみ:昨年にゴーヤを育てた時は、色々なレシピ開発の面白さがありました。(特にジュースは極暑を乗り切るのに効果抜群)ぶどうは、食用として育てませんでした。思った以上に沢山の房ができて感激しました。③工夫する楽しさ:棚の形状や枝のはわせ方など、前年よりも前進できるように工夫する楽しみがありました。④癒しと安らぎ:葉のすき間を通るさわやかな風を感じる時は、心休まる幸せな時間です。⑤ご近所とのふれあい:緑のカーテンが縁で、今まで見知らぬ人と会話を交わすなど、ふれあいの輪が広がりました。

外面的な効果として、毎年、緑のカーテンを「家のファッション」として実践しているため、上手くできた年は、いつまでも残しておきたい思いになります。また、ハチやカエルなど色々な生き物が葉に寄ってくるのを見ると、生物との共存の大切さを感じます。

育てる際の工夫・苦労

一昨年まではゴーヤでカーテンをつくっていたので、植物の選定には苦労しませんでした。土作りと肥料に関しては、書籍を参考に、毎年、色々な配合パターンを試行しています。

ゴーヤもぶどうも、食用として育てていないため消毒はしていませんが、結構良いできの収穫物が毎年得られます。

感想・楽しみ方など

緑のカーテンと雨水タンクとを連動させて省エネを実践してきましたが、1つのモデルとして広く普及できるように、今後も工夫していきたいです。また来年以降も、山梨のぶどうを緑のカーテンの主流として実践しながら、広く普及できるようにノウハウを蓄積していきたいと思います。